



- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさとを拓く子ども



中学校入学を見据え、意欲的に参加・交流しました

～「6年交流授業」・「八峰中学校 部活動見学」～

9月5日(木)、6年生が峰浜小学校に出向き、同校6年生と一緒に授業をした後、八峰中学校に移動し、部活動見学をしてきました。これは、6年生が小学校生活から中学校生活へ円滑に移行できるようにすることをねらいとしたもので、今年度初めての取組となります。

交流授業では、峰浜小学校の6年生とグループになり、漢字のつくりや都道府県について辞書や地図帳を活用しながら、協力して調べました。

普段の授業では、たくさんの人と関わることができないので、お互いに考えを交換しながら楽しく学習を進めることができていました。



八峰中学校での部活動見学では、各部活動の説明を聞いた後、思い思いの部活動を見学しました。

大きな声を出して真剣に取り組む姿は、6年生の目に新鮮に映ったようです。もうすでに入部する部活動を決めている人もいますが、中学校入学までにしっかり考えて、3年間、真面目に取り組める部活動を選んでほしいと思います。



来年4月から共に中学校生活をスタートする峰浜小学校の6年生と意欲的に関わりながら、それぞれの活動に参加することができました。少しではあるかもしれませんが、中学校生活に向けての見通しをもつことができたことと思います。中学校進学に向け、貴重な機会となりました。

収穫が楽しみです!



9月5日(木)、サツマイモ畑の草取りを行いました。

今年もサツマイモの苗に負けじと生えた雑草に悪戦苦闘しながら、20分ほど取り組みました。汗を拭いながらの活動でしたが、たくさんのサツマイモが穫れることを楽しみに、全校児童でがんばりました。

もうすぐ収穫の秋を迎えます。



今週の1枚



読書の秋です。たくさんの本に親しんでほしいものです。

『古生物大百科』
今は生きていない絶滅してしまっただ古生物たちの特ちょうがよく分かります。
須藤 碧恩

図書室前に、図書委員のおすすめの本が紹介されています。一つ紹介します。

学習の成果とふるさと八森の魅力を発信!!

8月31日(土)、本校の6年生3名が青森県むつ市で開催された「第14回日本ジオパーク全国大会」に参加し、ポスター発表をしました。

会場となったむつ市克雪ドームの来場者を前に、八峰白神ジオパークを学習素材として取り組んでいる本校のジオサイト学習について、堂々と発表しました。

1時間の発表時間内で、5回の発表を行いました。
質問の受け答えもあり、かなり疲れたようでしたが、
たくさんの人たちに聞いてもらえて、大満足でした。
発表前には、6年生が作成した八峰町を紹介するパン
フレットも配付し、本校の学習の成果と八峰町の魅力
を発信するよい機会となりました。

発表に際し、協力くださった皆様に感謝申し上げます。



会場で発表したポスターは学校に掲示してあります。ご来校の際、ご覧ください。



9月になりました。気が付くと頭上を飛ぶとんぼが急に増え、空気が涼しくなってきたことを感じます。秋の深まりとともに目にするものが赤とんぼですが、種類でいえば、「アキアカネ」。さらにいえば、真つ赤になるのは、成熟したオスだけ。6月頃に平地の沼や池で羽化しますが、高温に弱いため夏の暑い間は涼しい山で過ごし、秋風が吹く頃に里に下りてくる、いわば、秋の季節の使いです。童謡「とんぼのめがね」には、「とんぼのめがねは水いろめがね」とありますが、とんぼは40m先で動いた昆虫も見逃さない千里眼の持ち主で、最近の研究では、人間以上に様々な色を見分けていることが分かっているようです。害虫を捕食することがから、日本では古来から縁起のよい虫とされていますが、今から千三百年前に書かれた「日本書紀」には、天皇が日本列島の形をとんぼの飛ぶ姿に見立てたことが記されています。

また、戦国時代は決して後ろに下がらず前進する姿から、「勝虫」として武将たちに好まれ、兜（かぶと）の立物などにデザインされています。

このように、とんぼは昔から私たち人間と密接に関わってきました。しかし、近年、とんぼの数は世界的に減少しているようです。理由の一つが、生息地である湿地の減少。それは取りも直さず、私たち人間の安全な生活環境の減少であるともいえます。幾分涼しくなったグラウンドには、虫探しに夢中になる子どもたちがたくさん見られます。「校長先生、バッタをつかまえました！」「かまきりがいました！」群生して飛ぶとんぼの下、子どもたちの元気な声がいっまでも響くよう、環境を守っていく必要があると感じています。



とんぼの季節

